年正月、皇后○齊明即天皇位、改元、四年六月、讓位於天萬豐日天皇、○孝德稱天豐財重日足姫天皇、曰皇祖母尊、天萬豐日天皇、後五年十月崩、　元年正月甲戌、皇祖母尊即天皇位於飛鳥板蓋宮、

〔神皇正統記齊明〕齊明天皇は皇極の重祚なり、重祚と云事は、本朝には是にはじまれり、異朝には殷の大甲不明なりしかば、伊尹是を桐宮にしりぞけて、三年政をとれりき、されど帝位をすつるまではなきにや、大甲あやまちを悔て德ををさめしかば、本のごとく天子とす、晉の世に桓玄と云し者、安帝の位をうばひて、八十日ありて義兵のためにころされしかば、安帝位にかへり給ふ、唐の世となりて、則天皇后世をみだられし時、我所生の子なりしかども、中宗をすてゝ廬陵王とす、おなじ御子豫王をたてられしも、又すてゝみづから位に即給ふ、後に中宗位にかへりて、唐の祚たえず、豫王も又重祚あり、これを睿宗と云、これぞまさしき重祚なれど二代にはたてず、中宗睿宗とぞつらねたる、我朝に皇極の重祚を齊明と號し、孝謙の重祚を稱德と號す、異朝に替れり、是天日嗣を重くするゆゑ歟、先賢の義さだめてよしあるにや、

〔續日本紀二十六稱德〕天平神護元年十一月癸酉、先是廢帝○淳仁既遷淡路、天皇重臨萬機、於是更行大赦之事、以美濃國爲由機、越前國爲須伎、

〔神皇正統記稱德〕稱德天皇は孝謙の重祚也、庚戌の年正月一日、更に即位、同七日改元、太上天皇、○稱德ひそかに藤原の武智丸の大臣の第二の子、押勝を幸したまひき、太師其時太政大臣をあらためて、太師と云、正一位になる、○中略天下の政をかしながら委任せられにけり、後に道鏡といふ法師弓削の氏の人也又寵幸ありしに、押勝いかりをなし、廢帝○淳仁をすゝめ申して、上皇の宮をかたぶけんとせしに、事あらはれて誅にふしぬ、帝も淡路にうつされ給ふ、かくて上皇重祚あり、さきに出家せさせ給へりしかば、尼ながら位に居給ひけるにこそ、非常の極也けんかし、唐の則天皇后は、太宗の女御にて、才人といふ官に居給へりしかば、太宗かくれ給ひて、尼に成て感業寺といふ寺におはしけるを、高